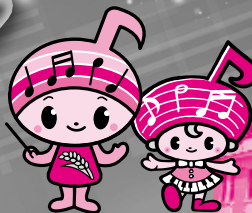


vol.
618

LINK



公益社団法人郡山青年会議所 2025年度スローガン

Bridging the future

～希望をつなぎ、
郡山の未来を創ろう～

【お話し】

私が郡山青年会議所の門を叩いたきっかけは、東日本大震災で感じた無力感でした。未曾有の災害を目の当たりにし、個人の力では地域やまちのために何もできない現実と直面し、自らの無力さを痛感しました。その経験が心に深く刻まれ、「地域に貢献する力の一翼を担いたい」という想いが芽生えました。同じ志を持つ仲間と力を合わせる青年会議所には、地域の未来を動かす力がある。私はその可能性を信じ、入会を決意しました。活動を重なるなかで、青年一人ひとりの行動がまちを動かす原動力になると確信しています。今、先輩方が築かれた歩みの重みを胸に、次の時代を切り拓く覚悟を持って、理事長に立候補いたします。

【挑戦する組織】

郡山青年会議所は、明るい豊かな社会の実現に向け、地域の青年に成長と行動の機会を提供することを使命としています。私たちが提供するものは、単なる経験ではありません。自ら考え、行動し、課題を乗り越えるなかで、自己成長を促す貴重な挑戦の場であり、地域を動かす力を育む場でもあります。私自身もこれまでの活動を通して、この機会の大切さを強く実感してきました。しかし、現状ではこうした機会を得られる人数には限りがあります。「まちをより良くしたい」「自分を成長させたい」と願う青年たちに、より多くの機会を届けるためには、組織の拡大が欠かせません。私たちが目指す組織の拡大は、単なる人数の増加ではなく、多様な価値観を持つ仲間が集い、互い



公益社団法人郡山青年会議所
二〇二六年度 理事長立候補所信

二〇二五年度 副理事長 大越 惇平

に学び合い、刺激し合える環境をつくることです。その環境こそが、地域の未来を切り拓く大きな力になると考えています。

【期待に応える広報発信】

広報の手段は多様化し、郡山青年会議所の取り組みはこれまで以上に多くの方々の目に触れやすい時代になりました。だからこそ、今一度「広報の本質」を見つめ直す必要があると感じています。私たちの運動は地域や社会の期待に応え、まちの未来に貢献するものです。つまり、地域の方々の想いに「報いる」ことでもあります。広報はその意義を正しく伝え、共感を広げるための重要な手段です。大切なのは、単に事業の内容を紹介するだけでなくそこに込めた想いや願い、そしてメンバー一人ひとりが感じたことを丁寧に発信することです。そうした積み重ねこそが共感を呼び、地域の心を動かす広報につながると信じています。「伝える」だけでなく「心に響く」広報を目指し、郡山青年会議所の存在意義を地域に届けてまいります。

【想いを共にするまちづくり】

時代の流れとともに、私が子どもの頃に当たり前だった地域の温かいつながりや絆は、徐々に薄れつつあると感じています。今こそ、地域の助け合いや支え合いの精神が必要です。郡山青年会議所は、まちをより良くするための起点となるべく活動する組織です。私は、世代や組織の枠を超え、企業・行政・地域の皆様と手を取り合い、パートナー



公益社団法人郡山青年会議所
2026年度理事長候補者 大越 惇平 君 プロフィール

氏 名	大越 惇平 (38 歳)
生年月日	1986 年 12 月 20 日
会 社 名	ブルデンシャル生命保険株式会社
役 職	課長代理
住 所	〒963-8002 福島県郡山市駅前 1-6-10 ダイワロイネット ホテル郡山駅前 3F
T E L	024-954-4301
F A X	024-954-4305
最終学歴	いわき明星大学人文学部心理学科 卒業
職 歴	2019 年 1 月 ブルデンシャル生命保険株式会社 入社
J C 歴	2020 年 総務委員会 委員
	2021 年 まちづくり委員会 委員
	2022 年 会員開発委員会 委員
	2023 年 持続可能な組織開発委員会 委員長
	2024 年 持続可能な組織開発委員会 委員
J C 出 向 歴	2025 年 副理事長
	2022 年 東北地区協議会 東北青年フォーラム 運営委員会 幹事
	2024 年 東北地区協議会 財政規則審査会議 委員
	2024 年 福島ブロック協議会 財政局 局長
	2025 年 日本青年会議所 組織グループ JC プログラム委員会 副委員長

令和 7 年 7 月現在

シップを大切にしたい運動を進めてまいります。地域の未来を切り拓くまちづくりは、多様な力が手を取り合ってこそ実現します。郡山青年会議所が地域の「橋渡し役」となり、持続可能で温かなつながりが息づくまちの実現を目指します。

【未来の主役のために】

地域の未来を担うのは、次世代を生きる子どもたちです。子どもたちが夢や希望を持てる環境を整えることは、地域の大切な使命です。失敗を恐れず挑戦する心を育むこと、そして失敗を通して得る学びや成長は、人生におけるかけがえない財産です。私たち郡山青年会議所ができることは、子どもたちに夢や希望を与える体験の場を提供し、挑戦する心を育む機会をつくることです。子どもたちが心から挑戦を楽しみ、未来への一歩を踏み出せるよう、青少年育成に取り組んでまいります。

地域全体で子どもたちの成長を支える社会を実現し、子どもたちが未来に向かって伸びていけるような環境を育んでまいります。

【結びに】

郡山青年会議所は六十五周年という大きな節目を迎えます。これまでの歩みは先輩方が地域のために尽力し、築いてこられた尊い歴史です。私はその熱い想いと歩みに、心からの敬意と感謝を捧げます。そして今を担う私たち現役メンバーには、次の時代を創る責任があります。六十五年の歴史を「力」に変え、未来を切り拓く挑戦を続けることこそ、私たちの使命です。これまでの活動を胸に刻み、未来への希望を抱き、青年会議所の仲間、地域の皆様と共に、次の時代を切り拓くため全力を尽くすことを、ここにお誓い申し上げます。

郡山市長選挙に伴う 公開討論会

四月十日（木）、郡山市公会堂にて「二〇二五年郡山市長選に伴う公開討論会」が開催されました。

今回の討論会では、立候補予定者の四名にご登壇いただき、進行役には一般社団法人リンカーン・フォーラム公認A級コーディネーター 渡邊 輝長様をお迎えしました。討論では、主に郡山駅西口ロータリーの混雑解消や東口の再開発、旧豊田貯水池跡地の利活用など、市政の重要課題について、それぞれの視点から具体的な提案や考えが示されました。本討論会には多くの市民の皆様にご参加いただき、各候補者のお考えに対して熱心に耳を傾け、情報番組や新聞でも取り上げていただくなど、多くのメディアで報道され、地域からの注目の高さがうかがえるものとなりました。



第六十四回「久米賞・百合子賞」 審査員顔合わせ会

五月三十日（金）、郡山ビューホテルアネックス十三階コシヨーン・ドールにて、第六十四回「久米賞・百合子賞」の審査員顔合わせ会を開催しました。

冒頭、佐久間実行委員長からの挨拶では歴史と伝統がある当事業を引き継いでいくために若者のみずみずしい感性を育み、それに応える事業運営を努めていくと話しました。その後、佐久間理事長より八名の審査員に対して委任状が手渡され、溝井勇様が審査員長に選出されました。審査員長挨拶では、「久米賞・百合子賞」は六十四回という長きにわたって続いているということに意義があり、青少年の文学的素養を育てる価値ある事業だと思っている。先日、芥川賞を受賞した郡山市出身の先生のよう

に地元で育てられた方も近年輩出している



ので、この事業を末永く続けていきたいとお話しされました。その後、募集要項および審査方法についての協議が行われ、多くの子供たちの才能を引き出すための取り組みについて意見が交わされました。懇親会では、各審査員の自己紹介が行われるなど、メンバーとの交流が図られました。今後の「久米賞・百合子賞」の募集や審査に向けて、審査員の皆様と有意義な時間を過ごすことができました。



五月例会並びに伝統文化体験会 〜絆こころからのおもてなし〜

五月三十一日（土）、AGCエレクトロニクス郡山カルチャーパークのカルチャーセンターにて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二五年度五月例会並びに伝統文化体験会〜絆こころからのおもてなし〜」を開催しました。

■五月例会

五月例会では冒頭佐久間理事長からの挨拶があり、例会に参加されている

メンバーのご家族に向けてLOMでの活動がメンバー自身の力になり、それが社会やそれぞれの家族へと還元されているので、メンバーの努力を褒めて寄り添ってほしいと話がありました。また、メンバーに向けて、自身が目役割だと認識しながら社業やJC運動・活動に邁進してほしいと話しました。会務報告・出向者報告では、各委員会や出向者から現状と今後の展開などが報告されました。

■伝統文化体験会〜絆こころからのおもてなし〜

例会終了後には、茶道をする「詫びグループ」と上生菓子を作る「寂びグループ」に分かれての伝統文化体験が行われました。

詫びグループは、まず、新入会員による茶道やその心構えについて学び、その後、新入会員や茶道の名前（茶名）をもたれている長尾副理事長の指導を受けて、実際にお茶を点てる練習が行われました。一方、寂びグループは家族と一緒に上生菓子作りを平田屋様の指導のもと行われました。日頃の活動では見ることのできないパートナーやお子様との優しい表情での会話や、楽しくお菓子作りをしているメンバーの姿を垣間見るこ



とができました。そして、寂びグループは最後に作った上生菓子をきれいに並べて郡山市のキャラクター「がくとくん」を描いていました。最後に、詫びグループのメンバーが点てた抹茶を詫びグループメンバーやご家族に振る舞い、家族が作った上生菓子と共に楽しめました。メンバーのご家族には、メンバーがJCでどのような活動をしているかを見て、感じていただく良い機会となりました。



第二十八回わんぱく相撲 福島ブロック大会

六月七日

（土）郡山相撲場にて、第二十八回わんぱく相撲福島ブロック大会が開催されました。今大会は、（公社）郡山青年会議所が主管し、大会会長を佐久間理事長が務めました。

郡山からは二名のわんぱく力士が参加し、練習の成果を土俵でぶつけていました。

当日は晴天に恵まれ、わんぱく力士の取り組みにメンバーからも大きな声援で後



押ししていました。
郡山から参加した五年生のわんぱく力士が優勝をし、全国大会への切符を勝ち取りました。



第一回OB元気会

六月二十四日（火）、郡山ビューホテル四階バラシオにて第一回OB元気会を開催しました。

佐久間理事長の挨拶では、先輩方とのつながりを深め、名前を覚えていただける関係づくりを大切にしてほしいとの言葉がありました。有賀隆宏OB会会長の挨拶ではOB元気会は現役

会員とOB会会員が交流を図れる貴重な機会であるので、積極的に歓談してほしいとお話がありました。その後、湯浅大郎先輩のご発声で乾杯となりました。歓談中は現役会員とOB会会員の皆様と積極的な交流が図れ、日頃から多大なるご支援、ご協力をいただいているOB諸先輩方に感謝の想いを伝えるとともに、今後の運動・活動に対する貴重なアドバイスをいただく機会となりました。

中締めのご発声は福内浩明先輩にお務めいただき、現役会員に今後のJC運動・活動に対する激励の言葉をいただきました。



第一回JC説明会

六月二十五日（水）、公益社団法人郡山青年会議所事務局にて第一回JC説明会を開催しました。

佐久間理事長の挨拶では会員候補者に向けて、郡山青年会議所はメンバー一人ひとりが切磋琢磨しながら日々活動しており、本日の説明会で疑問に思ったことがある場合は積極的に質問をしてほしいと話がありました。その後、持続可能な

組織開発委員会委員長 黒田容君より青年会議所の活動内容や、そこで得られる経験について自身の体験を交えながら会員候補者に説明し、候補者も熱心に耳を傾けていました。

現役会員も参加し、終始和やかな雰囲気の中で進行しました。我々現役メンバーも参加することで今一度、JC運動・活動の原点を振り返る良い機会となりました。



六月例会並びに講演会 『デジタルで拓く郡山の明日 ～若者と地域の新たな可能性～』

六月二十九日（日）、郡山市ビッグアイ七階 市民交流プラザ大会議室にて公益社団法人郡山青年会議所六月例会並びに講演会「デジタルで拓く郡山の明日～若者と地域の新たな可能性～」を開催しました。



【六月例会】

佐久間理事長の挨拶では六月事業の御礼と六月十二日から六月十五日に開催されましたASPACウランバートル大会について話しました。青年会議所には「国際」の機会があり、実際に参加したことで日本のアジア諸国での存在感や日本青年会議所の規模、誇りを肌で感じる事ができるので来以降、多くのメンバーに参加して欲しいと話がありました。その後、各委員会並びに出向者報告では事業のPRをするなど、運動が本格化し各メンバーが気概をもって取り組んでいることが伺えました。

『デジタルで拓く郡山の明日～若者と地域の新たな可能性～』

企業のDX推進成功事例から業務改善や新たな市場創造のヒントを得て、地域経済の活性化につなげることを目的に講演会を開催しました。講師にデ

ジタル庁 多田 功 様、山建設株式会社 代表取締役 山正弘 様、株式会社ブレイノベーション 代表取締役 菅家元志 様をお招きしました。御三方からDXの意義や企業事例、DXビジネスの在り方について基調講演をいただき、多くの参加者が熱心に耳を傾けていました。その後、まちづくり委員会 渡邊委員長をファシリテーターとしてパネルディスカッションを行いました。学生からの質問などをもとに、デジタルの可能性についてなどトークセッションを行い、閉会となりました。本講演会を通じて、参加者一人ひとりがデジタルの新たな可能性を見出し、得た知識を自身や自社の発展につなげる機会となりました。



第五十五回福島ブロック大会 in 浪江

七月五日（土）、七月六日（日）に「第五十五回福島ブロック大会in浪江」が開催されました。

当大会は福島ブロック協議会最大

の運動発信の場であり、「Fusion of Time」過去を学び、今を楽しみ、未来へ進む」のスローガンのもと、（一社）浪江青年会議所の主管で行われました。

■一日目：七月五日（土）

双葉町産業交流センターおよび東日本大震災・原子力災害伝承館にて「標葉祭り」や「集まれ！防災キッズアカデミー」などが行われました。会場には相双地区の特産品ブースなどが出展されており、多くの人で賑わっていました。また、LOMメンバーで震災遺構浪江町立請戸小学校などを訪れました。二〇一一年三月十一日、東日本大震災当時の様子を鮮

明に焼き付け、メンバー一人ひとりが震災を自分のこととして捉え、同じ福島県人としても少しでも復興に想いを馳せながら行動していくことを心に誓いました。その後



の大懇親会では、なみえ焼きそばなどご当地グルメを堪能しつつ、県内各地青年会議所メンバーと親睦を深めました。また、九月に開催されます東北青年フォーラムin秋田の事業PRも行われ、大会の成功に向けて参加したメンバーが元気にシュプレヒコールを行いました。

■二日目：七月六日（日）

浪江町地域スポーツセンターにてアカデミー成果会「手をつなごう」故郷にうねりを巻き起こせ!!」AWARDS FUKUSHIMA 二〇二五、記念式典が開催されました。アカデミー成果発表では各塾ごとに趣向を凝らした発表が行われ、出向しています新城英之委員と馬場菜里委員がメンバーの声援に後押しされながら堂々と発表していました。AWARDS FUKUSHIMA 二〇二五では県内各地青年会議所が開催した事業を投票形式にて表彰するという初の試みで行いました。郡山青年会議所からは昨年実施しました「楽都アニソンコネクト郡山」と「明日からやりたい発見隊になる

う!!」をエントリーしました。残念ながら最終審査に届かず表彰されませんが、県内各地青年会議所が行っている運動・活動を知る良い機会となりました。記念式典では（一社）浪江青年会議所鈴木貴仁理事長の挨拶が行われ、震災後メンバーが県内各地に散らばり解散の危機に瀕したが、皆で復興に向けて行動し、浪江の地でブロック大会を迎えられたことを誇りに思うと話されました。



その後福島ブロック協議会二〇二六年度会長候補者が発表され、会長候補者である（一社）会津喜多方青年会議所の岩田悠二郎君が次年度に向けた決意を表明しました。大会旗伝達式では大会旗が（一社）もとみや青年会議所に手渡され、木村駿太郎理事長が次年度ブロック大会の成功を宣言して閉式となりました。



二〇二五福島県予選 野球大会

七月十三日(日)、いわせグリーン球場にて「二〇二五年度福島県予選野球大会」が開催されました。郡山青年会議所はすりこぎクラブとして出場し、五チームによるトーナメント戦が行われました。

初戦である準決勝は昨年の優勝チームであるいわき青年会議所野球部と試合を行いました。先制点を取られ、一点リードされた三回裏に飯島悠希君がライトスタンドに起死回生の逆転サヨナラツーランホームランを放ち、劇的勝利を収めました。



いわき青年会議所野球部を撃破した郡山JCすりこぎクラブの決勝戦の相手はコッパット

【試合結果】

	1	2	3	R
いわき	1	1	0	2
郡山	0	1	2x	3

いわき青年会議所野球部…(柴田 - 松本)
郡山JCすりこぎクラブ…(大越 - 阿部) 本塁打: 飯島

ボーイズ
県北で、
序盤に先
制点を許
すも着実
に得点を
挙げ、悲
願の初優
勝を収め
ました。

【試合結果】

	1	2	3	4	5	R
県北連合	1	0	1	2	0	4
郡山	3	2	0	2	x	7

県北連合…(川村、丹野 - 丹野、鈴木)
郡山…(津村、圓谷 - 阿部) 三塁打: 大越、二塁打: 阿部

【決勝戦 スターティングメンバー】

- ①大越 セカンド
- ②太田 ショート
- ③大原 ファースト
- ④阿部 キャッチャー
- ⑤津村 ピッチャー
- ⑥鈴木 センター
- ⑦高橋 サード
- ⑧江崎 ライト
- ⑨松浦 レフト

監督…飯島
キャプテン…石井

試合終了後に歓喜の輪ができ、飯島監督と石井キャプテンを胸上げしました。

また、日曜日の暑い日に声援を送っていただいたL O Mメンバーと朝早くから会場の設営をしていただきました福島ブロック協議会の皆様に感謝申し上げます。
次戦は八月二日(土)、仙台は楽天モ



バイルパーク宮城で東北地区大会となります。福島ブロック代表としてベストを尽くしてまいります。



サマーコンファレンス 二〇二五

七月十八日(金)～七月二十日(日)にかけて「サマーコンファレンス二〇二五」が横浜の地にて開催されました。本大会は開催テーマに「Get your

Future」を掲げ、希望あふれる理想の未来を描き、全国各地で展開されてきた青年会議所の数々の運動の成果を、誰もが実践できるかたちで発信し、様々なセミナーやフォーラムが開催されました。

■一日目 七月十八日(金)

初日は日本青年会議所の理事会が開催され、佐久間理事長をはじめとするメンバーで参加しました。また、柳沼勝恵君が東北地区担当常任理事として出席しており、日本青年会議所の役員として活躍していました。



夜には地区ナイトが開催され、東北地区各L O Mのメンバーと親睦を深めました。また、当L O Mから東北地区協議会に出向しています、会長 柳沼勝恵君、運営専務 阿部圭祐君、事務局 局長 遠藤典宏君、事務局次長 平方貴之君、総務広報委員会 七海秀貴君も現地で事前に設営などの準備で活躍していました。また、東北青年フォーラム in 秋田のPRもあり、大会成功への気運が高まりました。

■二日目 七月十九日(土)

二日目は午前中に日本青年会議所へ出向しているメンバーの委員会訪問を行いました。日本青年会議所JCプ



ログラム委員会に出向しています、副委員長大越 惇平君、小幹事 安藤 礼重君、委員 増子 千晶君、米穀部会 部長 飯島 悠希君も現地で活躍していました。その後、オープニングフォーラムに参加しました。各界の著名人が多くのセミナーやフォーラムにゲストとして招かれ、LOMメンバーが興味のあるブースにそれぞれ参加していました。



J C 締結五十一年目にこの固い絆が今後五十年、百年先も続くことを誓いました。

■三日目 七月二十日(日)

最終日はフォーラム「私たちの言葉がつくる平和のストーリー」に参加し、平和をテーマに地域での平和教育を通じた、記憶の継承や平和の価値を伝える取り組みについて、ゲストからお話をいただき、平和について深く考える機会となりました。その後はフォーラム「Re: Education System」あなたが変われば、子どもの未来も変えられる」に引き続き参加し、価値観が多様化する現代社会のなかで私たち大人が子どもたちの学習環境を変革し、健やかな大人へ成長させていく大切さを学びクロージングとなりました。



会員拡大会議

七月二十二日(火)、公益社団法人郡山青年会議所事務局にて会員拡大会議を開催しました。

冒頭、担当であります持続可能な組織開発委員会委員長、黒田容君より会員拡大はLOMメンバー全員で取り組む使命があり、一人ひとりが当事者意識を持ち会員候補者にアプローチして欲しいと挨拶がありました。その後、参加したメンバーで会員候補者リストを精査するなど有意義な会議となりました。

今期目標であります二十五名の同志の入会に向けて、メンバー一丸となり会員拡大に邁進してまいります。



スポーツで広げよう!

みんなの夢
〜福島ファイヤーボンズ〜

七月二十六日

(土)、宝来屋ボンズアリーナにて、「スポーツで広げよう!みんなの夢〜福島ファイヤーボンズ〜」を開催しました。

当事業は福島ファイヤーボンズ様にご協力いただき選手やチャリダー、チームスタッフがどのような想いでお仕事をしているのか、また実際の活動を子どもたちに体験してもらうことで地域で夢や憧れを抱くきっかけや地域に愛着をもつ機会を創出し、郷土愛を育むことを目的に実施しました。

体験内容は参加した子どもたちが三つのグループに分かれて行われました。バスケットボール体験は福島ファイヤーボンズに所属するプロ選手と子どもたちがゲーム形式の試合を通じてバスケットボール体験を行い、チャリディング体験は福島ファイヤーボンズのチャリディングを行っていたRay-Glittersと一緒に振付の練習や講話という形でチームへの想いや活動内容についてお話いただき、チームスタッフ体験は福島ファイヤーボンズのチームスタッフの方からお仕事の内容





を伺うことで、スポーツへの様々な関わり方があることを学ぶ機会とし、子どもたちの視野を広げるきっかけとなりました。

また、見学に来られた保護者の皆様も子どもたちが楽しそうに活動する姿を温かい目で見守っている様子が伺えました。

七月例会

七月二十八日（月）、郡山ビューホテルアネックスにて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二五年度七月例会」を開催しました。

佐久間理事長の挨拶では七月事業の御礼と来年度山青年会議所が創立六十五周年を迎えるにあたり、メンバー一人ひとりが今から当事者意識を持つたうえで記念式典の準備をし、十年ぶりの実地開催で素晴らしい年になるように邁進していくと話がありました。また、会務報告と出向者報告が行われた後



に郡山青年会議所よりこぎ野球部より二〇二五年度福島県予選野球大会の優勝報告が行われました。すりこぎ野球部監督飯島悠希君より福島県予選大会での多大なる声援に対する御礼と八月二日に仙台で行われる東北大会で優勝をすると宣言しました。

その後、「二〇二六年度理事長候補者当選証書授与式」を行いました。二〇二六年度理事長候補者である大越惇平君が登壇し、「LOMメンバー全員が同じ目標に向かい全力投球することを約束する。」と力強く話しました。続いて専務理事候補者である堀川武尊君の紹介が行われ、「大越年度理事長候補者を身を粉にして支えていく」と宣言しました。また、佐久間理事長より当選証書が授与され、力強い握手を交わし閉会となりました。



アンケートのお願い



※ご記入いただいた個人情報誌面を充実させることや事業へ役立てること以外の目的で使用いたしません。

公益社団法人郡山青年会議所
広報渉外委員会宛
〒963-8004 福島県郡山市
中町5-17 中町スペース3F
FAX: 024-9332-2857

〈宛先〉
●性別 ●年齢 ●関係者か否か
●興味・共感を持った記事または事業
●本誌や当団体へのご意見・ご感想
●当団体にやってほしい事業

本誌や当団体へのご意見やご感想をお寄せください。
郡山青年会議所では本誌や当団体に対するご意見やご感想を募集しています。記載のQRコードから回答いただくか、FAXやハガキに左記項目を明記してお送りください。

Instagram QRコード

フェイスブック QRコード

エックス QRコード

SNSによる情報発信も行っています。